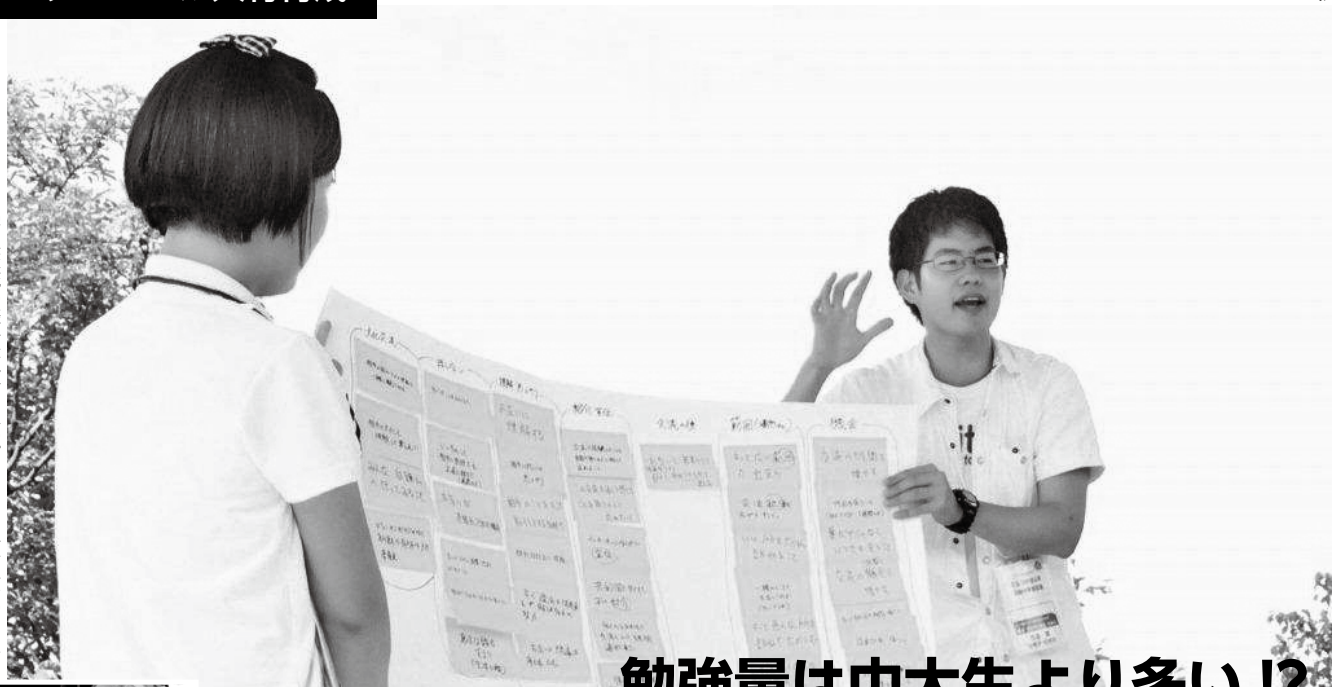
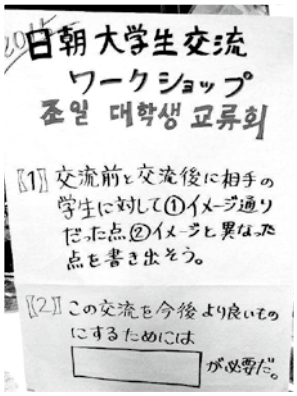


日朝学生交流の様子、龍岳山へのピクニックで、互いの印象を話し合った。左が北朝鮮の女子学生、右が竹田



勉強量は中大生より多い!?

日朝学生交流に参加して

北朝鮮学生 最新リポート

ことしの夏も朝鮮民主主義人民共和国（以下略記・北朝鮮）で首都平壌の大学生と交流してきた。民間レベルの「日朝学生交流」。昨夏に続く自身2回目の平壌で、両国から「こうした機会をもっと増やしたい」との声が上がった。ナマの情報に乏しい北朝鮮学生最新事情をリポートする。

学生記者　竹田響（総合政策学部4年）

北朝鮮。この言葉を聞いて、読者の皆さんは最初に何を連想するだろうか。貧困・ミサイル・拉致といったことが浮かんでくる。よく分からない国であり、「脱北者」の存在もメディアで見聞きする。イメージはここで終わり、彼方に住んでいる人の様子を想像することはなかった。

日朝学生交流の主催は、任意団体『南北コリアと日本のともだち展・実行委員会』。

今夏参加した日本人学生は私を含めて7人、交流相手の平壌外国語大学側は12人。日本人の参加学生も北朝鮮の人と会うのは初めてだが、平壌外大で日本語を学んでいる学生も、日本人に会うのは初めてという。

現地では学生同士、テーマ自由のフリートークを行った。“恋バナ”から政治の話まで、内容は実にさまざまで、お互いの印象は大きく変わる（日程表参考）。昨年の初訪朝では私も、北朝鮮にも日本と同じような学生の日常があることに衝撃を抱き、「平壌に日常の暮らしがあった」との率直な感想を平壌外大の学生に話した。

チュチェ思想塔の上から眺め見る平壌の街並み

彼らも、日本人に初めて会って「日本人も朝鮮の人と同じようにやさしいということが分かった」と答えた。どのような印象を抱いていたのか聞いてみると、「小学生のころから『日本は植民地支配をした悪い国で、日本人も悪いやつら』というような教育はあった。（でも）誰に教わったわけではないけれど、イメージとして『日本人は目付きがきつくて、自分の思っていることを通さないと気がすまない人々』だと思っていた。今回そうではないことが分かった」と答えてくれた。

この話には続きがある。帰国後、友人の母親との電話で、「朝鮮学校の近くを通ったときね、生徒がみんな目付きがきつくて怖かったのよ」という話が返ってきた。この話から、平壌の学生が一方的に日本人にマイナスイメージを抱いているわけではなく、日本人も、知らず知らずのうちにかもしれないが、負の印象を持っていることを学んだ。

今回は平壌外大の学生から、安倍総理の戦後70年談話について、どう思っているのかなどと聞かれた。日本の大学の入学金システムにも関心があるようだった。北朝鮮では大学は無償教育となっている。

平壌外国語大学の学生数は約2000人。世界23カ国語を学び、英語、中国語、ロシア語はそれぞれが学部制。その他の言語は民族語学部の各学科となる。日本語専攻も以前は一学部に位置付けられていたが、日朝関係がなかなか改善しないなか、履修者は激減し、ことし９月現在の学生数は約40人。国交がないために日本の教材が思うように集まらないという現状があり、この訪朝団は日本語教材を寄贈している。

北朝鮮の学生は卒業しても日本語を使う仕事に就くことは少なく、メディアや観光業界、対外機関の職員などとして活躍しているようだ。

交流のテーマは未来

私の関心は平和構築にある。昨夏訪朝してからは特に「人と人や国家同士が分断されている状態をどのように解消していけばよいのか」という点にフォーカスを当てている。「在日韓国・朝鮮人」への差別やヘイトスピーチが声高になっている現状から、日本にも「人と人とが分断している」状態があることに気付き、日朝問題にいっそうの関心を持った。人は想像できない相手に対して、恐怖心を抱くものだと思っている。その恐怖心が社会で増幅されていくと、相手の日常の暮らしが一切想像

期間／2015年8月21日（金）～29日（土）＝8泊9日（ビザ発給のため北京に１泊）

月／日		訪問先、活動内容ほか	宿泊
8/21（金）	AM	羽田空港集合、北京へ	北京
	PM	移動(空港→ホテル)、ビザ発給・北京の北朝鮮大使館	
8/22（土）	AM	移動（ホテル→空港）	平壌ホテル
	PM	空路、平壌へ	
8/23（日）	AM	万寿台参観、金日成主席生家見学	平壌ホテル
	PM	チュチェ思想塔見学、歌の練習、「抗日70周年」の話（通訳の学生とともに）	
8/24（月）	AM	人民大学習堂見学	平壌ホテル
	PM	【学生交流】平壌外国語大学訪問（顔合わせ）、凱旋門見学	
8/25（火・祝）先軍節	AM	【学生交流】民俗公園見学	平壌ホテル
	PM	【学生交流】平壌地下鉄乗車、統一通り運動センター見学	
8/26（水）	AM	3大革命展示館（重工業館）見学、ハナ音楽情報センター見学	平壌ホテル
	PM	ルンラ小学校訪問	
8/27（木）	AM	朝鮮革命史跡館見学	平壌ホテル
	PM	チャンギョン小学校訪問、お土産購入	
8/28（金・祝）青年節	AM	【学生交流】ピクニック、龍岳山へ	平壌ホテル
	PM	【学生交流】ワークショップ	
8/29（土）	AM	空路、北京経由羽田へ	
	PM	羽田で解散	

ＴＢＳテレビで紹介された

ＴＢＳテレビ夜のニュース番組『ＮＥＷＳ　23』（９月22日放送）のなか、『日本の大学生が北朝鮮に…何を感じたか』として紹介された。膳場貴子メーンキャスターは「こうした顔が見える交流は大事です」とほほ笑みながらコメント。岸井成格アンカーも学生の動きに好意的で、「国レベルでの交流が停滞しているときだからこそ、草の根レベルの交流に意味が出てくる」と話した。

日本の学生たちの訪朝時、韓国と北朝鮮の軍事境界線において韓国兵士が地雷により負傷したことを発端に、南北の緊張が極度に高まっており、北朝鮮は「準戦時状態」を宣布していた。これは４日目に解除された。

できなくなる。

相手の日常の暮らしが想像できなくなった時点で、相手は一人の人間から、ものと同じただの個体になってしまい、攻撃した側は特段何も感じなくなっていってしまうのではないか。このような思いから、「相手が想像できる」状態を築いていきたいと考えている。

日朝学生交流のことしのテーマを「未来」と決めた。これまで「会う」ことに主眼を置いていたが、「話し合い」に枠を広げ、双方でグループワークを展開した。話し合いのテーマは「（実際に会ってみて）イメージ通りだった点、違う点」、「日朝学生交流に今後必要なこと」。

日本と北朝鮮の学生が合同でワークショップを行うは初の試みだ。有意義だったのは、日本人だけでなく、朝鮮人の学生からも「（交流の）日数を増やすべき」「機会を増やすべき」「平壌だけでなくて地方にも一緒に行く」「東京でも実施しよう」といった前向きの意見が出されたことだ。

帰国後の私は、次年度以降の事業発展を目指し、引き続きボランティアとして携わっている。「想像できない相手との対話」が、私の生涯の一つのテーマとなりそうだ。

平壌にも、私たちと同じように大学に通い、勉強する世代がいる。中央大学の学生と比べるとものすごく勉強量が多いように感じた。勉強し、友人と語らい、夜はたまに居酒屋へ。ほぼ同じ日常の学生が対岸にいる。

私はこの事業を通じ、「北朝鮮」という言葉を聞いたとき、すぐに思い描ける友だちができた。相手の日々の暮らしを想像できることが、紛争予防の大きな軌跡になるように感じている。この事業に携われたことに感謝しながら、今後も分断状態の解決という視点から、平和構築に貢献していきたいと思っている。

凱旋門前で記念撮影する学生記者・竹田。パリの物より約10㍍高く、凱旋門としては世界一高いとされている

平壌市内の地下鉄に乗車。左右に車両が見える

学生記者、訪朝のきっかけ

昨年から学生記者・竹田はＮＧＯ（非政府組織）「日本国際ボランティアセンター」（ＪＶＣ）で1年間インターンをし、震災復興に携わった。ＪＶＣが展開する事業の一つに「コリア事業」がある。そのスタッフが平壌へ出張で行くという話に、「平壌って僕でも行けますか」と質問したのが、日朝学生交流に参加したきっかけ。昨年5月のことだった。

もっと知りたい へぇ〜

■歴史

日朝学生交流は2012年から始まり、ことしで4回目。主催の『南北コリアと日本のともだち展　実行委員会』は日本、韓国、北朝鮮や中朝国境近くの朝鮮族自治州に暮らす子供たちに同じテーマで絵を描いてもらい、その絵をそれぞれの国や地域で展示する。絵を見た人と作者がメッセージ交換を行うというもので、01年から行われている。

学生交流はこの事業の「発展版」として生まれ、日本と北朝鮮における数少ない交流事業といえる。

■日朝学生の交流時間

初年度の2012年は1時間ほど会って話をするだけだった。翌13年は会議室で半日のディスカッション。3年目の昨年は1日半、平壌市内を一緒に散策しながら、ガイドブック『地球の歩き方』平壌版のような冊子を学生の視点で作成した。交流する時間は年々伸びて、4年目のことしは2日半となった。